

丹波市
 地域おこし
 協力隊

地域おこし協力隊の活動を報告します

環境保全や自然教育に取り組む

尾形 真依子さん vol.51

経歴：兵庫県三田市出身。東京で営業職を経験後、子育てを機に自然に魅せられて丹波市へ移住。

任期：令和3年10月～



今の私の原点は、幼い頃に青垣地域の川で体験した川遊びです。魚取りや水浴びをして遊んだ思い出がきっかけで、自然の中で子どもを育てたいと思い、移住を決めました。丹波市に移住後、自然遊びの案内や環境保全活動を行っています。

現代は、テレビやゲーム、おもちゃなど物があふれ、子どもだけでなく大人も、自然を感じ生活する機会が少なくなっているのではないのでしょうか。自然の中にはおもちゃとなる木の実や葉っぱ、木の枝、石ころなどがいっぱいあります。たくさんある材料の中から、遊びにつなげようとする子どもには競争や点数という評価では測れない、考える力が育まれ

ます。もちろん、虫に刺されたり、砂利道で足を滑らせたりする危険は潜んでいますが、それを察知し回避する力、非認知能力が養われます。自然は、子どもにとっていいところばかりです。緑の中で風を感じ、虫や鳥の声を聴くことで心が落ち着く作用がある自然。ここでの原体験があることで、自然への愛着が芽生え、環境や地域を大切に作る心も育ち、子どもたちがふるさとにきっと帰ってくると思います。

これからも自然を思い、活動している人や自然と共生できる場所、子育てなど、丹波市の魅力を伝えていきます。



ホームページ



おがちゃん LINE

近年、少子化の影響により、全国的に高校の統廃合が進んでいます。市内の高校も定員割れになることがあるなど、厳しい現状です。生徒数の確保につながるためにも、それぞれの高校の魅力を引き上げ、特色のある学校にしていくことが重要です。そんな中、氷上西高校では部活動に挑戦型のゲームを競技として行う「eスポーツ部」を新たに設けることになりました。「eスポーツ」の世界の競技人口は1億人を超えるといわれています。国内でも若い世代を中心に人気広がっており、ファンの数は令和7年に、1,200万人を超えるという予測もあり、平成30年からは、高校生を対象にした全国大会も開かれています。

ただ、ゲームが部活動になるのかという疑問もあるかと思うのですが、文部科学省では部活動について多様な生徒が活躍できる場であることとしています。県教育委員会も「eスポーツ」は、体力や障害の有無に関係なく少人数でもできる競技だとして、部活動としての役割を期待できるとしています。

市では独自の交付金を新設し、こうした取り組みにかかる備品の購入や活動に必要な費用を支援して参ります。他の県立2高校でも同じ交付金制度を使い、特色ある学校運営を支援したいと考えています。

市内の高校生は、一昨年のモンブランで世界記録に挑んだプロジェクトの企画や昨年のランタンフェスティバルの企画など、市を盛り上げる大きなエネルギーを持っていきます。これからも彼らがのびのびと活動し、魅力ある活動ができるよう応援していきます。

高校の魅力向上を積極的に応援します

市長・林時彦の
 時を駆ける



丹波市長 林 時彦